

長畝ふるさと通信



【2024年5月号】

■ 田植あれこれ

昨年より4日早くスタートした田植え。毎年の事ではありますが、お天気にやきもきし、機械トラブルに頭を抱え、作業員の確保に四苦八苦しながらほぼ1ヶ月かけて何とか終わりました。



● 高温と強風にやられて・・・

連休明けからコシヒカリの田植を始めたのですが、気温が30℃近くまで上昇し(全国的に暑くニュースにもなっていました)、加えて風も強く吹いたせいで、せっかく植えた苗が枯れかかる場面がありました。植えなおしになったらどうしようと心配しましたが、どうにか持ちこたえたようで今は回復しましたが、とにかく暑い日が続きました。

● GPS機能が付いても田んぼの中までは・・・

今年から全ての田植機がGPS機能搭載になりました。確かに真っすぐに苗を植えてくれるのですが、田んぼの中までは見えず、度々田植機が深みにハマって動けなくなりました。我々では手に負えず、土建業者に頼んで大型重機で無理やり脱出するケースもありました。時間も経費も大幅ロスです。



● ドローン本格デビュー



今年購入したドローンがついに始動しました。40kgの肥料を積載しても軽々と飛行してあっという間に散布を終えて勝手に帰ってきます。バッテリーの消耗が激しいので、常に予備を充電しながら交換しなくてはならないのですが、それでも早くて楽ちんです。これで直播がうまくいけばコスト削減に大きく貢献する武器となってくれるでしょう。期待値は大きいです。

■ 誰のための基準だろうか

新潟県は昨年の異常気象によるコメ不作の対策として、特別栽培農産物の化学窒素成分の基準を改正しました。これまで特裁の化学窒素成分は10a当たり3kgまでだったものが「3.5kg」まで基準を広げることとなったそうで・・・「コシヒカリにおける異常高温時の管理対策として生育を判断し、気象状況を参考にしたうえでの肥料の追加施肥を推奨する」のが目的だとか。わかりやすく言うと「今年も昨年みたいな気象状況になった時のために、少しだけ化学肥料を多めに使ってもいいよ、これで対策を示したからね」という何とも安易な発想としか思えませんが・・・。確かに追肥の際に化学肥料を使った方が効果が出やすく、生産者の要望もあったのかもしれませんが、それで解決するような問題ではないと思うのです。昨年は佐渡でも1等米比率がわずかに3%となってしまったため「3等米でも食味は変わりません」だとか「トキ認証米を今年に限り2～3等米も認めます」などコメを何とかして売らんがための対策？をしてきましたが、そもそも生産側の都合で基準を変えてしまうことが良いのでしょうか。消費者にとっては迷惑な話だと思うのですが・・・

■ キッズも田植え

5月26日に環境学習の一環で子供たちと自然栽培米の田植をしました。昔ながらの八反を回して全員で泥んこになりながら手植えです。スマート農業で機械化が進む中、こうした経験は将来に生かせるのでしょうか。テレビでも各地でこうした体験学習のニュースを紹介していますが、当の子供たちはどう受け止めているのか、大人の勝手な目論見に終



わってしまうような気がしてなりません。本来、食糧の大切さは学校教育の課程でしっかりと取り組むべきだと思うのですが、学校に呼び掛けても「授業のコマ数を減らせない」などと積極的に取り組む姿勢は見えません。「これからはもっとおコメを大切に食べようと思いました」というインタビューは大人へのリップサービスじゃないか・・・コメ生産者は色々とお悩んでおります。と言うわけで令和6年産米もどうぞよろしくお願ひ致します。**おかわりは自由です。**